

弘前大学

# 学園だより



絵:「無題」制作/教育学研究科院生 毛利まりえ

特集

新学期を迎えて

I 巻頭言	
弘前大学学長 遠藤正彦	2
II 特集 各学部長挨拶	
人文学部長	4
教育学部長	5
医学部長	6
医学部保健学科長	7
理工学部長	8
農学生命科学部長	9
特集「新入生・在学生の声」	
人文学部	10
教育学部・教育学研究科	12
医学部医学科	14
医学部保健学科	16
理工学部・理工学研究科	18
農学生命科学部	20
III 人文学部ボランティアセンター	22
IV 弘前大学芸術祭「プレミアム」	26
V 新任教員自己紹介	28
VI けいじばんコーナー	30
VII 編集後記	30



## 100周年へと向かって

平成23年度学部及び大学院の入学の皆さん、入学誠におめでとうございます。弘前大学は皆さんを心から歓迎致します。皆さんの入学式は、東日本大震災のため、遅れて実施されました。皆さんの中には、この度の東日本大震災において、ご家族や家等直接被災された方もおられましょう。心からお見舞い申し上げます。本学では、そのような学生の皆さんを中心に支援してまいります。

この福島第一原子力発電所の事故を含めた東日本大震災は、人々の生活基盤、経済、財政、産業、貿易等々に多大な被害を及ぼし、これからの復興には、かなりの年月のかかることが予想されています。これから皆さんは、我国のこの震災からの復興のための、極めて重要な担い手となることとなります。したがって、皆さんは、この大学の勉学の中で、これからの社会における使命を自覚して、しっかりと己の方向を定めるべく努力して欲しいと願います。そうした大学生活の中で、青春を謳歌し、意義ある大学生活を送って下さい。

さて、弘前大学は、国立大学法人中期目標第2期に入り、また創立60周年を越え、創立70周年、80周年、100周年へと向かって、大きく飛躍を開始しました。皆さんは、本学構成員のひとりとして、本学の伝統と誇りをもって、自分の道を進んで下さい。では本学の誇りとはどのようなもののでしょうか。

# 「弘前大学

## 歴史

**本学の誇り 1** 本学は、明治9年創立の青森県師範学校を原点とすると、今年で134年もの歴史があります。昭和24年新制大学として創立されて満62年になり、これまでの卒業生61,167名が全国で活躍しています。

## 大学の構成

**本学の誇り 2** 本学は、人文学部、教育学部、保健学科を含む医学部、理工学部、及び農学生命科学部からなる文系・理系のすべての学問領域の基礎をカバーする5学部と、それにすべて直結している大学院博士前期課程（修士課程）と後期課程（博士課程）の7大学院研究科と、3研究所とからなる中規模の総合大学です。特に、独立大学院・大学院地域社会研究科のあることが特徴で、このため文系学部を含む全学部が、大学院博士課程に連なっていることになるので、本学は完成度の高いという点で、著しい特徴があります。

## 研究所

**本学の誇り 3** 本学は、文系・理系の中規模総合大学ですが、地方の大学として地域と共に歩むための3つの研究所があります。1つは、青森県は自然に恵まれており、この太陽光、風力、海流、地熱等を対象とし、自然エネルギーを研究する我が国唯一の「北日本新エネルギー研究所」があります。2つ目は、青森・秋田両県にまたがる世界自然遺産白神山地の弘前市側に、我国最大規模の自然観察園を持ち、白神山地の研究をする「白神自然環境研究所」があります。3つ目は、青森県は原子力産業の基地として多数の原子力関係産業がありますので、県民の原子力に対する安心・安全のため「被ばく医療総合研究所」があります。

## 本学の立地

**本学の誇り 4** 本学は、世界自然遺産白神山地、岩木山、八甲田山とに囲まれた津軽平野の中の城下町・弘前市にあります。その弘前市は、明治の建物と、世界的建築家前川國男のモダンイズムの建築物とが、調和した街並みを作り、また豊富な文化財のある、勉学の環境が抜群に備わった街です。

## 教育

**本学の誇り 5** 教養とそれぞれの専門の基礎を重視している  
ので、豊富なメニューをそろえた教養教育と、  
精緻なカリキュラムをもった専門教育を行って  
います。少子化の中で入試倍率を増やし続けて  
います。

## 研究

**本学の誇り 6** 現代の最も重要な医療機器である超音波・核  
磁気共鳴吸収装置(CT-MRI)の原点となる回  
転横断撮影の発明と、肝移植術の原点となつた  
生体肝移植世界最長生存犬は、本学で生まれた  
もので、世界的研究として光っています。また、  
青森県の縄文遺跡群の中の、三内丸山遺跡と亀ヶ  
岡遺跡の発掘に、本学は著しい貢献をしました。  
理工学部2号館にあり、地球の自転の様子を知る  
ための“フーコーの振り子”は日本一の長さです。

## 図書館、出版会、資料館

**本学の誇り 9** 旧制弘前高等学校の流れをくむ本学の  
附属図書館は、特に最近文系図書が著し  
く補強されています。様々なコレクション  
のある中で、ピーターパンの著者で  
ある英国エジンバラ大学総長であつた  
ジェームス・M・バリのほとんどすべての  
著書から成る「ピーターパン・バリ文庫」、  
本学の前身・旧制弘前高等学校で学んだ  
太宰治に関する「太宰治研究文庫」、本  
県特産りんごに関する様々な資料を集  
めた「りんご研究資料コーナー」、現在  
の漫画ブーム・アニメーションの原点と  
なつた手塚治、寺田ヒロオ、藤子不二雄、  
赤塚不二夫や石ノ森章太郎を育てた名編  
集者加藤謙一に関わる「加藤謙一文庫」  
等があります。

本学出版会の歴史は浅いのですが、そ  
の出版事業が高く評価され、一般社団法人  
大学出版部協会への加盟を果たしました。  
これは、現在国立大学86大学中10  
大学しか加盟が認められていません。ま  
た、学生自身がこの出版会から図書を  
出版していることは光っています。

弘前大学の歴史を整理し、展示する「資  
料館」が来年完成予定です。

## 本学の文化財

**本学の誇り 10** 太宰治の自筆ノート他太宰治の資料、  
47年に渡る津軽夏祭・ねぶたのねぶた  
絵、東京芸術大学宮田亮平学長の“いる  
か”60体を含む金工作品“しあわせのリ  
ング”、津軽領元禄国絵図等、貴重な多  
くの資料があります。

# の誇り」

## 学生の活躍

**本学の誇り 7** 本学の学生が、学生時代の卒業研究やゼミで  
の研究が高く評価され、学会奨励賞や特別賞を  
受賞すること、国際誌に掲載されること、また  
は、本として出版されること等が、増えていま  
す。そして、社会は本学のこれらの学生を高く  
評価し、学生の就職率は、例年全国平均を上回っ  
ています。

## 学生の元気

**本学の誇り 8** ヒマラヤの前人未踏の山の世界初登頂、アル  
タイ山脈の世界初縦走、混声合唱団全国合唱コ  
ンクール銀賞入賞、NHK全国大学放送コンテ  
ストTVドキュメンタリー部門文部科学大臣奨  
励賞、大学オーケストラのトップクラスと言わ  
れる弘前大学フィルハーモニー管弦楽団、津軽  
の伝統音楽の津軽三味線、教職員学生の一体と  
なつた総合文化祭と芸術祭等、学生は元気です。

また、学生の自らの編集による図書の出版が  
本学出版会より続いています。

こうしたことは、他大学にはない弘前大学の誇  
るべきことであり、我々の誇りの拠り所です。皆  
さんは、これら本学の伝統と厚みのある様々な  
ことを誇りのよりどころとして心に刻み、これら  
の大学生活を有意義に過ごして下さい。

# 人文学部

人文学部長  
石堂 哲也

Tetsuya Ishido



皆  
さん  
に  
期  
待  
す  
る  
こ  
と

1月遅れで始まった今年の新学期のキャンパスは、どことなく静かで沈んだ雰囲気があるように感じます。皆さんの中には直接被災した人、知人や親戚の方が被害にあったという人もいます。どうか、気持ちをしっかり持って充実した学生生活を送ってください。困ったことがあればいつでも相談に来てください。

人文学部では人間について考えます。少し乱暴ですが、哲学・歴史・文学などの文化系は人間を内面から考察し、法学・経済・経営などの社会科学系は人間の行動を外側から観察・分析していくと言っています。

その人間がこの50年ほどの間に自ら造り出したテクノロジーの進化の加速度に付いて行けず、豊かさの中で困惑する不思議な生活感覚を生み出しました。

私たちは前の世代の価値観を引き継ぎます。敗戦直後の衣食住の確保すら困難であった時代を乗り越えて、家電製品による安逸な生活や、一部の人が所有していた乗用車に手が届きそうになりました。しかし、欲しいものは高価でした。あれか、これか迷います。その分勤労意欲も強かった。

しかし、これらのものを既に与えられたものとして生まれて来る時、人々は努力目標を見失います。あれも、これも手にはいるけれども心は満たされない。前の世代が築いた生活様式に充足感と

空虚感が混在しているのを鋭敏に感じ取ってきたのが皆さんの世代ではないでしょうか。

3月11日の夜、暗闇のなかで私たちは愕然としました。自分の生活が電気と石油がもたらす恩恵によってなりたっていること、そのことを当然のこととして意識もせずに暮らしていること、停電で使えなくなって途方に暮れた機器のほとんどは50年前には存在さえしなかったのだということを思い知ったのでした。私たちはいつの間にこれほど沢山のモノを抱えこんでしまったのか。

これから長い時間をかけて東北・北日本の再建が始まります。その時中心となっていくのが今年入学してきた君たちの世代です。

目指すべきは君たちの前の世代が構築した価値観との相剋でなくてはなりません。

肥大化した人間の欲望が産み出したさまざまな機器が、電気がなくてただのモノになった闇のなかで私たちは考えました。どれくらいの欲望であれば私たちは地球に許してもらえるのだろうか、と。

今、数値目標をあげて節電に協力を求められています。それよりも、どうでしょう、月に一度、自分から停電の日を定め、この日にはケータイも切り、闇の中で孤独な一夜を過ごしてみても。普段考えない多くのことを静かに考えてみては。そのとき、明るい処では見えない道筋が暗闇のなかに浮かび上がってくるかも知れません。

もちろんこれはたとえの話です。自分の生活のありようを定期的に見つめ直すための静謐な時間をもつ習慣が次の世界の礎だと思います。

こういうことをじっくり考えたい人のために2冊の本を紹介して拙稿を閉じることにします。ひとつはH.D.ソローの『ウォールデン』、ひとつはトルストイの「人間にはどれほどの土地がいるか」。前者は森の中の湖畔に一人で暮らした生活の記録。長くて読み応えのある本です。後者はむしろかしそうなタイトルとは違って短い寓話で『トルストイ民話集—イワンのばか』に収められています。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。教育学部では、「専門力」と「実践力」を兼ね備えた教育プロフェッショナルの養成を目指していますが、今年度、「専門力の充実」に向けて入試とカリキュラムの再編を実施しました。ここでは教育学部の現状と皆さんが大学生活で心にとめておいてほしいことをいくつか述べてみます。

「教育学部」と「教育学研究科」では、専門的な知識・技能を習得して、社会や学校等さまざまな場で、学習者を支援することのできる専門家の養成を目指しています。「教育学部」では①児童生徒の学習と健康を支援する学校教員の養成と②児童生徒の学校外での学習及び成人の学習・文化・スポーツ活動を支援する教育専門職員の養成を行っています。

カリキュラムには、学生自身の人間形成のための科目、「教育プロフェッショナル」として身につけるべき知識・技能を習得するための科目、人間をより理解するための科目と、これらを生きた知識・技能とするための1年次から4年次までの多様な実習が配置されています。さらに、教員免許取得のための新しい科目「教職実践演習」が実施されますが、このための教科書作成には、学生が主役として関わりました。また、附属学校園の副校長も教育学部実践教授として学部の実践的な授業や実習計画作成に参加するとともに、学生を指導しています。

さらなる教育の高度専門職を目指すのが「教育学研究科(修士課程)」です。「学校教育専攻」、「教科教育専攻」および「養護教育専攻」があります。

これらの教育・研究を、附属学校園と附属センターが支えています。皆さんは、このような環境の中で、自分の専門を学ぶとともに、他の専門の興味ある科目も学ぶことができます。また、努力次第では複数の免許取得も可能です。

次に教育学部の今年度の主な話題です。

① 教員採用は東北、北海道地域は採用枠が狭くなる傾向が見られます。しかしながら頑張っ現役で合格する学生が多くなっていることは頼もしい限りです。23年3月のデータでは、青森県に18名の正規合格者が出ています。

首都圏では大量採用が続くと予想されています。教育学部は、就職支援委員会を中心に学生諸君の就職活動をバックアップしています。希望を持って1年次から各種の情報収集に努めるとともに計画的に勉強してください。

企業・公務員の就職は、生涯教育課程を中心に増加する傾向にあります。公務員への就職は、教

# 今年度の教育学部

教育学部長  
昆 正博

Masahiro Kon



職以上に競争が激しくなっていますが、日常の勉強と地道な受験対策により採用される学生がかなりの増加傾向にあります。

② 教育学部の第2期校舎改修が終わりました。南側の校舎の第3期の工事(新築部分もあります)があるために、まだまだ不便な部分が多いかと思いますが、我慢してください。学生、同窓会、教職員で相談しながら良い環境を作っていきたいと思っています。

③ 地域の教育力向上を目指した「ラボバスプロジェクト」がさまざまな教科で進められています。学生諸君も参加する機会があるかもしれません。

大学内での活動だけではなく、学外においても自主的に様々な取り組みに参加している学生が多いのが教育学部の特徴です。青森県教育委員会が実施している高校生とのふれあいの企画、理科実験の支援などにも多くの学生が参加しています。とくに、最近社会的な問題となっている子どもの「ネットケータイ問題」に対する弘前大学の学生によるパトロール等の活動は各方面から高い評価を受け、全県的な活動に発展しています。

3月に東日本大震災がありました。学生の皆さんの中にもさまざまな困難の中にある人もいることと思います。これからの、学生生活のことに関して困ったことがあったら担当の教職員に相談してみてください。工夫することにより乗り越えられる困難もあるかと思ひます。

最後に皆さんが、日常生活の基本的なマナーやルールをよく理解し、遊びはほどほどにして、一生懸命に勉強し、人間の成長を支援する良き専門家となることを期待しています。

# 医学部 トイレの紙

医学部長  
佐藤 敬  
Kei Satoh



新入生の皆さんに心から歓迎とお祝いの意を表したいと思います。今年は震災の影響もあって、年度当初の計画の変更を余儀なくされ、新入生の皆さんにも戸惑いがあったかもしれません。そんな中でのスタートであればこそ、より一層、新たな決意を持って勉学に臨んで下さることをお願いします。そして、この場を借りてもう一つをお願いをしたいと思います。

最近ヒットした、植村花菜さんが歌う「トイレの神様」によると、植村さんのおばあちゃんは“トイレにはキレイな女神様がいて、トイレをきれいに掃除すると美しくなれる”と言っていたそうです。一方、大学の中でこの頃気付くことの一つは、しばしばトイレ内の床にトイレットペーパーの切れ端が散乱していることです。これは、誰かが中途半端な長さに切ってしまった紙を床に捨てたものと思われませんが、切れ端は決して小さなものではなく、十分使用に耐えるものです。それでも、切れ端一枚の経済的価値は無限小だと思いますが、例えそんなものであっても、床に投げ捨てる感覚を持って欲しくないと願っています。

すべての職業にあてはまることですが、医師という職業も周囲に対する配慮が必要です。患者さんに対する配慮、医療チームの同僚に対する配慮など、他の人々に対する配慮はもちろん、些細な物事にも心を配る姿勢を失わないで欲しいと願っています。私は、皆さんにトイレの掃除をお願い

したいのではなく、トイレの使い方一つにも気を配って欲しいと願っています。さらに、トイレはあくまで一例であって、医師として、あるいはさまざまな領域の専門家として、周囲に配慮すべき物事は他にも数多くあるにちがいありません。私自身も、例え小さなことにも気を配る繊細さを持ちたいと自戒しています。

象徴的な意味で、「トイレの神様」でおばあちゃんが言っていることは本当だと思います。それらしい話は前にも聞いたことがありますが、トイレをきれいにするには決して些細なことではなく、他人が嫌う物事に率先して取り組む姿勢と心が人間をキレイにするということでしょう。繰り返しますが、皆さんは、大学のトイレを掃除する必要はないものの、その使い方やトイレットペーパーの切れ端一枚にも心を配る人になって欲しいと願っています。皆さんの中の多くの人は、既にそのような人たちだと思いますが、私自身も含めて、まだ気付いていない、さまざまな小さな事柄を見逃しているかもしれません。言うまでもなく、「トイレの神様」はあくまで一例であって、ともすれば、忙しさの中で物事に対する配慮に欠けてしまうかもしれない私たち全員への、貴重なアドバイスを受け止めたいと思います。そして皆さんは、「国手」という言葉に相応しい医師を目指して勉学に励んで下さい。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年の入学式と授業開始は、東日本大震災の影響により、例年より約1ヶ月遅れての実施となりましたが、希望に胸をふくらませた皆さんの姿を教室に見ることができます。

さて、21世紀とともにスタートした医学部保健学科も、10年の節目を経て、今春、第7期卒業生209名を送り出し、第11期生201人、3年次編入生19人、大学院博士前・後期課程院生32人を新たに迎えることができました。保健学科の特徴として、「医療専門職になりたい」というはっきりとした目的意識を持って入学してくる学生が多いことがあげられます。茶道の祖である千利休が茶の心得を歌った「利休百首」の第一首に、「その道に入らんと思ふ心こそ我身ながらの師匠なりけれ」という歌がありますが、皆さんも入学に当たって抱いた初心を常に思い出しながら、これからの学生生活を送っていただきたいと思います。保健学科の授業科目は、各医療専門職の国家試験受験資格の関係上、教育内容と到達レベルが細かく指定されています。そのため、1年前期から専門基礎科目や導入科目が開始されるなど、保健学科の授業時間割は他学部比べて密度が濃く、かなり忙しいかも知れませんが、そうした忙しさの中から、時間の使い方を学ぶことも必要ではないかと思えます。

高度化・専門分化した現代医療においては、医師のイコール・パートナーとしての医療専門職の役割が重要視され、それぞれの分野で卓越した専門知識や能力を備えているスペシャリストが求められています。しかし、スペシャリストは狭い範囲の知識や技術を深く追求するがゆえに、ややもすると視野も狭くなりがちです。そこで、専門以外の幅広い分野にわたる知識と視野を備えるための努力も必要となります。その意味において、大学における教養教育の果たす役割は重要です。現代社会において求められる人材とは、一つの分野での専門的能力や知識をマスターし、しかも幅広い分野にわたる知識と視野をもっている人材、すなわちスペシャリストとジェネラリスト両面を兼ね備えている人材であるとされています。幅広い見識と視野を備えた人格は一朝一夕には身につく

## 目 標 に 向 か っ て

## 医学部保健学科

医学部保健学科長  
對馬 均

Hitoshi Tsushima



ものではありません。21世紀教育はもちろんのこと、課外活動や友人との語らいを通して、多くの違った考えや生き方に接する中で培われるものでしょう。こうした点をよく理解して、自分を磨いていただきたいと思えます。

保健学科の学生にとって大変なのが、文京キャンパスと本町キャンパス間の移動です。時間割によっては、昼休みの間に移動しなければならないこともあります。でも、この不便さを逆手にとってプラスに変えるという発想も欲しいところです。困難に直面したとき人間の真価が問われることとなりますが、そのとき頼りになるのはそれまで培われた知識と経験に基づく問題解決力に他なりません。自信を持つことも必要ですが、自信は努力の積み重ねから得られるものだと思います。畑村洋太郎氏の提唱する「失敗学」という発想にみるように、失敗を恐れず失敗から学ぶことも必要でしょう。こうした点を念頭に置いて、4年間という貴重な時間を有効に使い、目標達成を目指してください。

# 理工学部

理工学部長  
稲村 隆夫

Takao Inamura



## 新入生に贈る言葉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。東日本大震災の影響で、授業の開始が約1ヶ月ほど延びてしまいました。皆さんも大変待ち遠しかったことと思います。この間、皆さんはどのような思いで過ごされたのでしょうか。大学に入ったら、こんな勉強をしたい、このような研究をしたいと考えて入ってこられた学生さん。自分の理想を追い求めてください。しかし、高度な勉強、研究をするためには、それを支える基礎知識が必要です。大学に入って1、2年の間は、この基礎知識を得るためにいろいろなカリキュラムが用意されています。基礎教育ばかりでつまらないと感じるかもしれません。しかし、これは4年生、大学院生になって高度な研究をするための準備段階であると思って少し我慢し、基礎知識をしっかり身につけてください。

さて、皆さんは今回の大地震後自然の脅威を目の当たりにし、人間の創り上げた科学技術のひ弱さを実感したかもしれません。一方で、科学技術のお陰で今日の繁栄を築き上げ、その恩恵を我々が享受できているのも紛れもない事実です。例えば、科学技術の粋を集めたものの一つが飛行機ですが、それによって今日では学生の皆さんでさえ自由に世界を飛び回ることができます。今日の飛行機の原型は今から約100年ほど前にライト兄弟によって考案され、その後飛行機は目覚ましく発達しましたが、その開発には多くの犠牲が払われています。多くの犠牲の上に、今日の繁栄があることを忘れてはなりません。

皆さんは、国産のジェットエンジンを搭載した飛行機が第二次大戦中に日本の空を飛んだことをご存じでしょうか。第二次大戦以前に用いられていた飛行機のエンジンは、自動車のエンジンと同じ往復動のレシプロエンジンでした。しかし、第二次大戦中にジェットエンジンがイギリスとドイツ

で別々に開発され、大戦後半にはこのジェットエンジンを搭載したジェット機が活躍するようになりました。日本でもドイツのジェットエンジンの組立図を基に日本独自のジェットエンジンを開発し、日本の空を飛行するに至りました。ジェットエンジンの名前は「ネー20」で、飛行機の名前は「橘花」です。今から65年以上前の、1945年8月7日木更津の海軍飛行場にてネー20を2基搭載した双発ジェット機橘花が12分間の初飛行に成功しました。さらに8月11日に2回目の飛行に挑戦しましたが、離陸に失敗して海中に突入し、日本は終戦を迎えました。敗戦後、GHQにより日本の航空に関する研究ならびに開発が7年間の長きにわたり禁止され、航空機産業はもとより各大学の航空学科も廃止されました。1952年にGHQの航空禁止令が解除されると、主に練習機用のジェットエンジンとして開発が進められ、やがて国際的なプロジェクトであるV2500の開発に、世界の3大ジェットエンジンメーカーの内の2社、ロールス・ロイス社とプラット・アンド・ホイットニー社に混じって日本企業も参画することになります。一方、日本の航空機産業は1955年頃より再開され、やがて日本初の旅客機であるYS-11（エンジンはロールス・ロイス社製）を生むに至ります。

東北地方・関東地方は未曾有の大震災に遭い、多くの方が亡くなりました。皆さんのご関係の方に被災された方がおられるかもしれません。この大震災に被災された全ての方々にお見舞い申し上げます。今後、この東北地方の復興にどれくらいの時間がかかるか分かりません。しかし、必ず復興すると信じています。私たちの先達たちが戦災からの復興を成し遂げたように。そしてその復興を担うのは若い皆さん方です。復興を担う前に、学生の皆さんはまず大学において知識を修得し、また多くの経験を積まなければなりません。そして、得た知識・経験を復興のために生かすのが皆さんの役割です。若い皆様方には、東北地方そして日本の復興に全力を尽くして下さいよう期待いたします。

また、この未曾有の大震災に遭い今までの価値観が大きく揺らいでいます。私たちの先達たちは、戦災からの復興を成し遂げるために、今までの価値観を創り上げてきました。そして、戦後半世紀も経たずに経済大国日本を創り上げました。しかし、今回のこの大震災から復興するためには、これまでにない新しい価値観が必要となるでしょう。その新しい価値観を創っていくのは若い皆さん方です。日本にとって何が一番大切なのか、人の幸せとはどういうことかを皆さん自身がよく考え、将来の日本復興の柱にして頂きたいと思えます。

最後に、新入生の皆さんに上杉鷹山の言葉を贈ります。「なせば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」

平成23年3月11日午後、ある会合に出席中に地震の揺れを感じたが、間もなく止むだろうといったもの感覚でいた。しかし、揺れが不気味に長いと思った瞬間、部屋の照明が消え、俄に不安に駆られた。日中であったこともあり、窓から差し込む光のため部屋はまだ明るく直ちに困ることはなかったが、しばらく待っても停電が復旧しない。情報が全くなく、何が起こったのかが分からず、ただ座すのみであった。

後で知ったことであるが、その時、三陸沖を震源地にマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、これに誘発された巨大な津波が東北地方太平洋沿岸を中心に広い地域を襲って、多くの方々の貴重な生命が奪われた瞬間であった。翌日、ようやく電気が通じて、テレビから流れた映像に衝撃を受けた。繰り返し映し出されるのは陸を駆け上がる黒い津波のシーン、そして日常が一瞬にして奪われ、瓦礫の山と化した被災地の姿であった。親族や知人の安否も確認できない被災者の悲痛な面持ち、慟哭する姿。テレビの画面を直視すままならない報道が続き、被災者の現実を考えると胸が張り裂けそうな気持ちになる。未曾有の大災害に加え、東京電力福島第一原子力発電所の事故という大きなニュースが飛び込んできた。事故収束との報道を期待しながらテレビにかじり付いていたが、原子炉の「カクノウヨウキ（格納容器）」などの用語が飛び交い政府や東電が発表する内容の意味するところを把握しきれず、震災後相当の時間が経っても安堵させてくれるニュースは聞けずじまいである。

直接的な被害は他県に比べれば小さかったため、一月遅れの入学式で新入生諸君を迎えることができた。東北にある大学の教員として、我々は未曾有の大災害に対して学術がどこまで有効に貢献できるかを今後真剣に考えていかねばならない。新入生を含め本学の学生が被災地の復旧・復興に積極的に関わっていく有為な人材として社会に送り出す責任もあり、今、大学は何をすべきなのかが問われている。喫緊の課題としては、福島原発から放出された放射性物質による影響・被害を最小限に食い止めることである。放射性物質を長期間出し続ける影響を鑑み、農水畜産資源の保護、食

# 新 農学生命科学部

農学生命科学部長  
鈴木 裕之  
*Hiroyuki Suzuki*

入生のみなさんの  
果敢な挑戦を期待する



品の安心・安全、水資源の保全、表土の塩害対策、生物多様性及び森林・生態系の保全などが重要な課題となるが、これらはすべて農学生命科学部が対象としている研究分野である。さらに、今回の大震災によって引き起こされた原発事故は、我が国のエネルギー政策の問題点も提起し、太陽光発電等の自然エネルギーの利用が注目されている。日本では太陽光の数倍以上の発電が可能という風力発電もある。その他、地熱もバイオマスもある。バイオマス・エネルギーもやはり農学系学部の研究課題の一つである。この様に捉えると、被災地における地域活力の再生・復興策を検討する時、弘前大学農学生命科学部への期待は大きいだろう。各専門の知識を総動員して、一刻も早く復興の最善の道を探し出さなければならない。

弘前大学農学生命科学部は、地域社会で活躍する人材の育成と社会への貢献を大きな教育研究目標としている。さあ～！ 東日本大震災によって発生した様々な環境問題を改善・解決し、持続可能な社会の再生を目指す復興への取り組みに皆さんの若い力が求められている。

今回の大震災は都市型災害といわれた阪神淡路大震災の経験がかすむほどであり、しばしば敗戦直後の状況にも例えられる。再出発しなければならない日本で自らが担うべき役割を見いだして欲しい。

新入生のみなさんの果敢な挑戦を農学生命科学部は期待しています！



人間文化課程 1年

中村 美仁

## 固い意志をもって

初めて親元を離れ、「自分のことは自分の責任」ということが弘前大学に入学してから私が強く感じることです。社会通念から考えると大学生は一人前の大人であり、社会的な責任も考えていかなければなりません。私は高校でソフトボール部に所属し自ら進んで挑戦していくことや、周囲へのさり気ない配慮の必要性など、これからの人生に通じることを学んできました。大学はこれまでの学生生活に比べ自由度が高い分、このような内面的なことがさらに重要になってくるのではないかと思います。私は大学で歴史学や考古学を学びたいと思っています。それと同時に人間性も大学で磨いていきたいです。

今年は入学が1ヵ月程遅れ、授業も始まったばかりなのでまだ要領よくやる方法がわかりません。1コマの時間も55分から90分と長くなり、授業内容も教科書に沿ったものの方が少なく、受け身ではなく自主性が求められるなど今までは違う、と痛感しています。

しかし大学での学びや経験はこれからの人生に大きく関わってくると思います。1人暮らしや他県の人々との繋がりで自分の世界が広がっていくと思うのでこれからの生活がとても楽しみです。私はここでの大学生活が最高のものとなるように目標をもって励んでいきたいと思っています。



現代社会課程 1年

谷内 萌

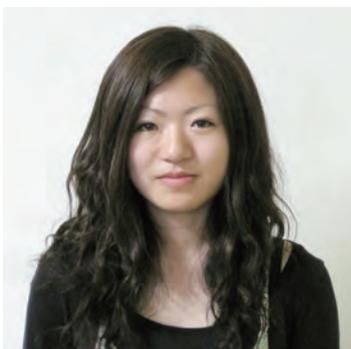
## 心持ち

弘前大学での新たな生活が始まって一か月、とても濃密な毎日が続いてきました。今の生活になって徐々に落ち着いてきてからは、新たに会った様々な人々の価値観や考え方に触れ、自分の中に取り入れることもできました。

そして地元を離れて生活するようになったことで、何気ない自分の身の回りの些細なこと、例えば自身の大切な家族や友人たちの存在意義などに関しても、改めて考え直すことができ、今一度その重要性について身をもって実感することができたのも、弘前での新生活がもたらした恩恵だといえます。

そうはいても、私は大学生としての自覚もまだ浅いことにも気が付きました。学業や生活習慣、自己責任の持ちようなどの面では特に、戸惑いや不安の感情も少なからず現存しています。しかしこれから生活に慣れていくことで次第に払拭できるはずなので、前向きに考えようと思います。

大学生活は、その人自身の心持ち次第でいかようにも充実させるものだと私は信じています。また、何事も受け身ではなく主体的にこなしていき、自らのアンテナをいろいろな方面に張ることで得られるものはいくつもあるはずです。これらの気持ちを忘れず、大学での四年間は自分を高めるために最大限尽力していきます。



経済経営課程 1年

小山内 愛

## 期待と不安

弘前大学に入学して1ヵ月が経とうとしています。今年は、東日本大震災の影響もあり、入学が遅れました。その間は、「友達できるかなあ」「授業についていけるかなあ」と不安でいっぱいでしたが、ウエルカムパーティーやガイダンスをきっかけに友人ができました。また、サークルにも入りました。初めてサークルに行った時は緊張しましたが、優しい先輩たちばかりでこれからの活動がとても楽しみです。最近ではアルバイトも始め、多忙ではありますが、とても毎日が充実しています。

大学は高校と違って、自分で時間割を決めなければならないし、授業も高校みたいに黒板に書くのではなく、□で説明する授業がほとんどなので、ついていくのに必死です。予習・復習をすることは大事だと改めて実感しました。

これからの4年間はあっという間に過ぎていくと思います。だからこそ一日一日を大切に、大学生活が充実していたと胸をはって言えるように、自分の夢に向かって、何事にも全力で頑張りたいです。



人間文化課程 4年

金谷 理緒

## できる限り多くの挑戦を

新入生の皆さん、こんにちは。もう弘前で生活には慣れましたでしょうか。私は今年4年生になり、今までの3年間があっという間だったと感じると同時に、とても中身の濃い長い月日を過ごしたとも感じています。

おそらく私と同様なことを思いながらこの先の大学生活を過ごしていくであろう皆さんに、先輩として一つだけアドバイスをさせていただきます。

自分のできる限り、多くのことに挑戦してください。勉強でも部活動でもアルバイトでも、少しでも興味を持ったことには全部取り組んでください。多種多様な経験をするのが、必ず皆さん自身の成長に繋がります。

その中で、無駄な時間を過ごしたと後悔することもあるでしょう。けれど、そんな無駄な時間を過ごせるのも今だけなのです。時間を自由に使える今のうちに、思い切り遠回りをして存分に道草を食うのも悪くないと思います。それに、たとえ多くの後悔をしたとしても、同時に達成感や満足感などプラスの気持ちを少しでも得ることができたならば、その挑戦は中々良い経験になったということです。

皆さんのこれからの4年間で、充実した素晴らしいものになることを願っています。頑張ってください。



現代社会課程 4年

長内 春樹

## 失敗をしよう

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

入学からの日々は、あっという間に過ぎたのではないのでしょうか。私自身あっという間に3年が過ぎたと、このメッセージを書きながら実感しています。

皆さんは、どんな大学生活を思い描いていますか？これまで、学校や家庭などに時間を管理され、狭いコミュニティーの中で生活してきたと思います。しかし、大学生は違います。自ら時間を管理する立場へと変わった今、行動さえすればどんなことも実現でき、様々な人と出会うことができます。

私は1年生のとき「国際関係の勉強をしながら留学生と交流し海外へ行く」という大学生活を思い描いていました。そのため国際関係の講義を積極的に受講し、留学生をサポートするチューター活動や国際交流に力を入れてきました。チューター活動をきっかけにニュージーランドへ行くこともでき、思い描く大学生活を送ることができました。

皆さんはぜひ、思い描く大学生活の中で沢山の失敗を経験して下さい。何かに挑戦しなければ、失敗することすらできません。失敗できる時間と環境が、大学生にはあります。皆さんの大学生活は始まったばかりです。ぜひ、挑戦と失敗に溢れる楽しい大学生活を送って下さい。



経済経営課程 3年

工藤 亮磨

## かけがえのない時間・出会いを大切に

1年生のみなさん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。念願かなって入学できた人もいれば、不本意ながら入学したという人も中にはいるかもしれません。しかし、ここ弘前で大学生活は、きっとみなさんの人生にとってかけがえのない時間になることでしょう。それぞれ入学しての想いは違いますが、弘前大学でのすべての出会いを大切に、これからの大学生活を送ってください。

私はすでに大学生活の折り返し地点を過ぎましたが、とにかく「時間の流れが速かった」と感じています。大学生活での時間はあっという間に過ぎていきます。みなさんにはこれから4年ないし6年という長い時間があります。後悔しても過去の時間は戻ってはきません。1秒1秒を大切に、有意義に大学生活を過ごしてほしいと思います。

そして、ぜひ大学時代にしかできないことにチャレンジしてください。人生の中で、大学生活ほど自由に時間を使えて、かつ失敗が許されるのは今しかありません。幅広い分野の資格試験を受けたり、行ってみたいところへ旅行したりなど、失敗を恐れずにたくさんのことに挑戦しましょう。みなさんが自身の力を思う存分に高めて、卒業するときみなさんが『弘大に入学してよかった!』と思えることを期待しています。



学校教育教員養成課程  
学校教育専攻幼児教育専修1年

高橋 充代

## 大学生になって

私は高校生の時のオープンキャンパスで、弘前大学の雰囲気と先輩に憧れて入学を決意しました。ですから、今その憧れの場所で生活していると思うと嬉しいですし、これからの大学生活が楽しみです。

大学に入学して、高校生の頃よりも自由なことが多いということをととても感じます。例えば時間割です。自分で時間割を組み立てるので、たくさん自由時間が欲しい人は授業数を少なくすることが可能です。しかし、目先の自由だけに気を取られると、卒業や教員免許取得に必要な単位数を満たすことが出来なくなるなど、後から大変なことになります。「自由が増えるとその分伴う責任も増える」ということは以前から聞いていましたが、実際に体験してみると自由も楽ではないなと思います。

また、大学は高校までのようにクラスというものがないので、学生の数が多い割に友達の輪を広げる機会が少ないということも感じました。私は、教員になるためには、たくさんの人たちと知り合い、様々な考え方に触れることが必要だと考えています。自分が考えている教師像に近づくためにも、大学生活をより楽しむためにも、4年間で出来るだけたくさん、人と交流出来る活動に参加し、コミュニケーション能力を高めたいと思います。卒業する時に、悔いのない大学生活だったと言えるように、何事も精一杯頑張りたいです。



学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 美術専修1年

畑林 和貴

## 大学生として

弘前大学へ入学して1ヶ月が経とうとしています。多くの変化に戸惑いながらも最も実感したのは高校との差でした。高校までは学問にしても多くのことを与えてもらっていたんだということを改めて実感します。同時に能動的に学ぶことの必要性を考えさせられました。今まで私は与えられるものをより多く吸収しようと努めてきましたが、大学という場では自ら学びに行くという姿勢が重要なのだとはっきり自覚しました。

学問以外でも一人暮らしや大学の体制など戸惑う部分も多くありますが、友人や先輩に支えられ少しずつ今の生活に慣れてきました。多くの人の助けがなければ新しい環境にこんなにも馴染むことはできなかったでしょう。本当に感謝しています。

私は教師になることを目標としています。正確には子供たちへ「何か」を伝えられる教師になりたいと考えています。子供たちには何が必要なのか、何を与えるべきなのか、弘前大学で学びを深める中で、そこに自分なりの意義を見出し、4年間でその「何か」を探していきたいと思っています。



生涯教育課程  
芸術文化専攻1年

今 陽太郎

## 新しい環境で

弘前大学に入学して一月が経とうとしています。私の生活は高校の時に比べて、様々なところが変化しました。

まず、時間に余裕ができたことが挙げられます。午前中しか講義の無い日は自動車の運転免許を取るために教習所に通うこともできます。余裕があるのは空きコマがあることなどは別に、大学で過ごす時間も、自分で選択した講義や学問に費やすことができるという理由があるかもしれません。また、大学では、自分で時間の使い方を決めることや自分で決める時間割や履修登録などで、自分のことを自分でする主体性を求められるようになりました。始めのうちはこうした新しい環境に少し戸惑ったものの、今では同じ専攻や授業などでの友人もでき、サークル活動にも参加して大学生活を楽しんでいます。

私が所属する芸術文化専攻では、教育以外にも音楽や美術を始めとする芸術について学ぶことができます。開講されている専門教育の授業はまだ少ないのですが、私は主に美術について学びたいと考えています。大学生活はまだ始まったばかりで乗り越えるべき課題もこれから出てくるでしょうが、それらに背を向けることなく努力し、有意義な4年間を過ごしたいと思います。



学校教育教員養成課程  
小学校教育専攻 3年

小枝 さくら

## 新入生に向けて

新入生のみなさん、大学の生活にはもう慣れましたか？今年には震災の影響で、はじめからたくさん不安な思いをされたことでしょうか。また、入学してからは家族と離れて暮らす生活や授業の履修の仕方や組み立て方、サークルの活動など様々な場面で戸惑うことがたくさんあったかと思います。特に、小学校教育専攻は、教員免許取得がかかるので、時間割の立て方には神経質になったのではないのでしょうか。そんな時、一人で悩んでいては不安は募る一方ですし、心も体も疲れてしまいます。分からないことや、不安なことがある時は、周りの友人や先輩方、先生や家族を存分に活用し、問題を解消していくとよいかと思います。

また、大学では自分の時間をたくさん持つことが出来ます。その時間をいかに過ごすかで、充実した大学生活になるかどうかが決まってくると思います。是非早い段階から目標を持ち、自分の時間をそれに向けていければよいのではないのでしょうか。また、この専攻では実習や、講義でたくさんの人との繋がりを持つことが出来ます。私は大学で得たそれらの繋りは、かけがえのない財産だと感じています。新入生の皆さんもこれからできる人とのつながりを1つ1つ大切にしていって欲しいと思います。



生涯教育課程  
芸術文化専攻 3年

今 里奈

## 新入生に向けてのメッセージ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ようやく今の生活に慣れてきたところでしょうか。新しい生活に心を躍らせつつも、今後の大学生活や更には将来についての不安も同時に持ち合わせているのではないのでしょうか。

高校と大学で一番違うのは常に自分で考えながら行動する自由を与えられている点です。時間割りの組み立ては勿論、アルバイトやサークルなどの余暇の過ごし方等の一日の生活の仕方を自分で決めることが出来ます。しかし自分で考えた上での行動には必ず責任がついてきます。時には大きな失敗もやらかしてしまうかもしれません。しかし例えそうなってもそれに捕らわれ過ぎないようにして下さい。何も得ない失敗はなく、また行動しない人には失敗さえも無いのです。

遊びでも勉強でも、興味があると思ったものには貪欲に取り組んでみることをお勧めします。本気で求めれば手を差し伸べてくれる先生・友人・環境があるのが大学という場所です。

皆さんが有意義な大学生活を送れるように心から祈っております。



教育学研究科 2年

藤井 花恵

## 新入生の皆さんへ

新入生のみなさん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。

大学は、異なる出身地や環境で育った人々が集まっている場所です。今まで出会ったことのないような、多様な考え方や価値観を持った人たちと出会えます。それは先生方達にも言えることです。そんな友人たちや先輩方、先生方と積極的にコミュニケーションを取ってみてください。自分が目指す学問に関することはもちろん、ただの世間話でもかまいません。そこから得られる会話や言葉がどこかで役に立つのかは、正直言うとわかりません。しかし困難に立ち向かった時や、日々の研究のふとした瞬間に、それらの言葉が突然意味を持ち始めることがあります。多くの価値観の人々が集まるこの大学では、言いたいことは積極的に誰かに話し、逆に誰かの話も寛容に受け止めて自分の財産にしていってください。

今は、今までとは違う毎日に戸惑うことも多いと思いますが、そのようなときは周囲の友人や先輩、先生方を頼りにして、少しずつ新しい生活に慣れていってください。そして、たくさんのことを経験して、大学を卒業するときには「楽しかった」と思えるような、そのような学生生活を過ごせることを願っています。

医学科1年

出石 りさ

## 大学生活の抱負

今年は東日本大震災の影響で入学が約1ヶ月遅くなったので、まだ大学生活に慣れていません。授業もようやく始まり、高校までの勉強と大きく異なる点がたくさんあり戸惑うことも多いですが、基礎人体科学演習や臨床医学入門などこれから医師になるための勉強の基盤となるものもあるので、今まで以上に勉学に励みたいと思います。また、私は医学部軟式テニス部に入部しました。中学校のときに2年程軟式テニスをしていたので、大学でも6年間続けて、たくさん練習して上手になりたいです。一人暮らしは炊事や洗濯、掃除など今まで親に任せきりだった全ての家事を自分でやらなければならないのが大変ですが、その代わりに自分の好きなように時間を有効活用できるので、もっと効率的に家事が出来るようになりたいです。そしてもう少し大学生活に慣れたら、アルバイトをしてみようと思っています。学校という枠を出て社会の中で働くという経験を今できるうちにしておきたいです。やりたいこととやらなければならないことがたくさんありますが、自分の行動に責任をもって、6年間の大学生活を楽しみながら将来につながるものにしていきたいと思っています。

医学科1年

桑田 大輔

## 新生活を始めて

地獄のような受験勉強もなんとか切り抜け、やっと待ちわびていた新生活が始まりました。「よっしゃあ！医師になるために勉強に励みまくるぞ〜」と言いたところですが、一人暮らしをはじめ、新しい友達や友人とも出会い、徹夜で遊んで文句を言う親ともしばらくの間はお別れです。この条件が揃ってしまっただけで学生生活を勉強以外のことでも楽しまないわけにはいきません。もちろん勉強を疎かにするわけではありません。私の学生生活の抱負は、授業の前の晩に遊びすぎて次の日の授業をサボるといったことがないようにすることです。この抱負さえ死守し続ければ、きっと学生生活はとても有意義なものになると思います。また大学生の生活を目のあたりにしてとても驚きました。少し前まで高校生だった私にとって、タバコを吸ったり、吐き続けてなおお酒を飲んだり、徹夜でマージャンをしたり、授業をサボったりする先輩はまるで新しい生物であるかのように見え、「大学生というものはこういうものなのか」と思いました。決して見習おうとは思いませんけど。私はいろいろな先輩や友人などから、良い部分のみを吸収しながら6年間を有意義に過ごし、立派な医師になりたいと思います。



医学部医学科

医学科2年

北原 智康

## 一年生への言葉

一年生の皆さん、学校生活にはもう慣れましたでしょうか。そろそろ新入生という呼び名から一年生に呼び名が変わったところだと思います。ひとり暮らしをしている人はその暮らしにも慣れた頃でしょう。部活やサークルには入ったでしょうか。アルバイトはどうでしょう。一年生の間は専門の授業がほぼないので暇を持って余すことが多いと思います。空きコマや全休もつくり方次第、そしてそれを活かすも殺すもあなた達次第です。そんな時、寝るのも一つの手ですがせっかく時間があるのですからいろいろなことをするのいいと思います。夏であれば海水浴、冬であればボードやスキーもいいでしょう。同級生だけに限らず先輩と遊びに行くのもいいと思います。二年以降の科目の予習、なんてことをする人もいるかもしれません。勉強するのであればオススメはHuman biologyを訳していくことです。専門知識に関してはどれほど手に入るかは人それぞれですがこれから学んでいくうえでのいい下地になってくれるはずです。地震の影響で色々とは違う点も多々あると思いますがこれからがんばっていきましょう。

医学科2年

高橋 咲

## ご入学おめでとうございます

一年生の皆さん、この度はご入学おめでとうございます。「一年生の皆さんに何かメッセージを」との事でしたので、幾つかアドバイスをしたいと思います。

まず始めに、一年生は一番時間に余裕があるので、自分からいろんな事に挑戦するのが良いと思います。勉強に関して言えば、教養課程などは一年生のうちにしかできないので、自分の選んだ専門分野以外の事に何か興味があれば、それに全力で取り組む事をお勧めします。教授がたはその分野の研究者でいらっしゃるの、質問すればいろんな事を教えて下さいます。でももしそういった教科が無い人でも、大学にはサークルや飲み会など楽しい事は他にもあるので、そちらに力を入れるのもありだと思います。

次に時間についてです。一年生のうちから、効率の良い時間の使い方を身につけておくと良いかもしれません。二年生になって感じたのは、自習の課題や自習時間の多さです。一年生の授業でもレポートを課す教科はかなりのありますが、二年生では毎週レポートを書きます。大変ではありますが、ここで効率よく課題をこなす事ができれば、二年生でも自由な時間はたっぷり作れると思います。

この2つを参考に、皆さん頑張ってください。



医学部付属病院



作業療法学専攻1年

山本 優姫

## 新天地

晴れて弘前大学の学生の一員としてキャンパスに足を踏み入ると何とも言えぬ充実感と誇らしさで胸がいっぱいになった。不安ばかりが募っていたが、入学式を迎えるとそれまでの不安は嘘のように消え、新生活に対する期待に変わっていた。友達もたくさんできたし、作業療法学専攻の先輩方も優しいばかりで、大学生活について様々なアドバイスを頂いた。

入学して約一か月が経ち、大学生には自主性が必要であると実感した。有意義な大学生活を送るためには、何事にも自分から積極的に行動していかなければならない。高校時代は消極的で人任せだったことが多かった私は、大学の四年間で知識面だけでなく、人格から大きく飛躍したいと思う。また、これからはたくさんの人と様々な交流をしていくことを通して、私自身のコミュニケーション能力を高めたいと思う。

授業が始まり、弘大生としての新生活は始まったばかりで、未知なこともまだまだ多くある。だが、その分自分の可能性は未知数で成長の余地があるということである。四年後の自分が誇れるような充実した大学生活を送りたいと思う。

理学療法学専攻2年

阿部 雄介

## 新生に向けて

新生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。また、去る3月11日に発生した東日本大震災の被災地出身の方、あるいは親戚・知人が被災地におられるという方に心よりお見舞い申し上げます。

さて、皆さんはどのような思いでこの弘前大学へ入学しましたか。第一志望だから、地元だから、センター試験を失敗したから…色々といえると思います。しかし、どのような事情があるにしろ、卒業までの大学生活をどんな色で、どんな模様で描くかは皆さん次第です。

初めにも述べましたが、大学には色々な人がいます。文系・理系という区別だけではありません。勤勉な人、遊んでばかりの人、気さくな人、引っ込み思案な人、留学生などたくさんいます。総合大学である弘前大学であればなおさらです。自分が今までにあったことのないような人に会うかもしれません。様々な人との交流の中で自分の考え方や価値観といったものに風穴をあけることになるかもしれません。多くの人との交流を通し、知識や教養といったものだけでなく、自分という「人間」を成長させることができるのではないのでしょうか。

今までは敷かれたレールの上を走ってきました。しかし、大学生となった今は自分でレールを敷かなければなりません。皆さんはどんなレールを敷きますか。どんな自分になりたいですか。弘前大学での大学生活を通じ、なりたい「自分」を見つけてみてください。

放射線技術科学専攻2年

阿部 沙紀

## 大学生活で身につけること

新生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活にある程度慣れてきた時期だと思います。新しい環境で生活していることで、すでに多くの発見があったと思います。私はみなさんに、大学生活において知識はもちろんですが、それ以上に自分から行動して多くのモノを得て欲しいと考えています。私は大学生になり、積極的に行動しなければ得られるモノは薄くなってしまったということを1年間過ごしてきた中で痛感しました。私は、サークルと学生委員会という組織に所属して活動していくうちに、人間関係がずいぶん広がりました。そこで得られるモノといえば、ただ単に「友達」や「先輩」だけではありません。自分の知らない社会、新しい考え方、異なる価値観など、なるほどと思うこともあれば、納得できない時もあります。ですが、人の考えと触れ合うことで自分でも考えるようになります。大学生活では人との関わりが欠かせません。もちろん社会に出てからもそうです。今のうちから、自分というものを持ってはいても、柔軟な思考で多くのモノを吸収して学び、卒業する時に『自分はずいぶん成長した』と思えるような大学生活を送って欲しいと思います。



検査技術科学専攻 2年

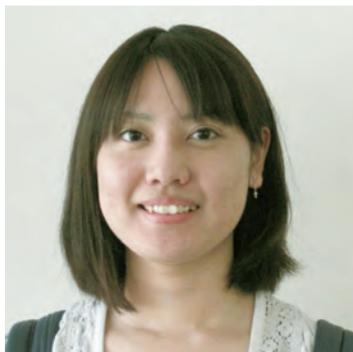
氏家 里紗

## 新入生の皆さんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今年は3月に発生した東日本大震災の影響で後期試験や授業日程などが変更になり、落ち着かない春を迎えたかと思います。

大学は自分の興味があることに挑戦できる可能性にあふれた場所です。なにか明確な目標を持って大学にきた人もいるでしょう。まだ将来が決まっていない人はサークル、アルバイトそしてボランティアなど様々なことを経験して今後の進路決定に役立ててください。私もホテルでアルバイトをしています。学校では学べないことを学ぶことができ、やりがいを感じています。そして忘れて欲しくないことがあります。親元を離れて生活している方が多いと思いますが、大学生として責任を持った行動をしてください。また自由を与えてくれる両親への感謝の気持ちを持ってください。私は実家が福島なので少なからず震災の影響を受けました。この震災を通して家族がいるという当たり前のことがどんなに幸せなことかを思い知りました。また仕送りしてもらい自分のやりたいことを勉強できることに感謝しています。

大学生活の1年はあっという間です。毎日を大切にして充実した大学生活を送ってください。

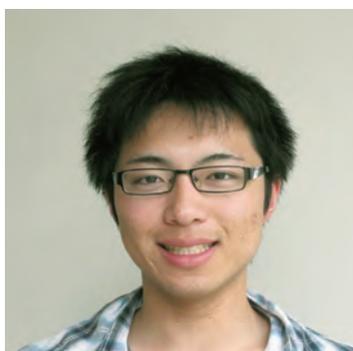


検査技術科学専攻 3年

坂本 陽奈

## 新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい大学での生活や、地元を離れて弘前へと来た方は一人暮らし、下宿や寮生活などの新しい生活には慣れてきたでしょうか。大学生としての生活は初めてのことが多く、色々なことが新鮮で楽しいと思います。実際、私の場合はそれまでほとんど家事は母に任せていたので、一人暮らしでの家事は掃除、洗濯、料理…など全てがとても楽しく感じました。学校が忙しくなってくると、なかなか楽しむ余裕もなくなってきたりしますが、1年生のうちはまだ時間がある方だと思います。なので、1年生のうちに学生である今しかできないことをたくさん経験するのが良いと思います。勉強ももちろん大切ですが、それだけでなくアルバイトや部活、サークル活動、どこかへ旅行に行く…など、時間を有効に活用してください。また、1年生では21世紀教育科目などもありますが、この授業を通して自分の所属している学部や学科以外の人とも友達になれる良い機会でもあると思うので、今のうちに様々な学部の友達をたくさん作っても良いと思います。大学生活では、楽しみや自分のやりたいことをたくさん見つけて、充実した楽しい毎日を過ごして下さい！



検査技術科学専攻 3年

水木 悠太

## 大学生活の大事なこと

ご入学おめでとうございます。7月となり、弘前での生活はもう慣れてきたのではないのでしょうか？勉強や部活、サークルなど、すでに大学生活の楽しみを見つけている人もいないのでしょうか？まだ見つけていない人は是非見つけましょう。大学生活の充実感が全然違ってくるように思えます。

私がここまで大学生活を送ってきて重要だと思うことは、時間の使い方を覚えることと、目標を持つことです。時間がいかに大事かは言うまでもないと思いますが、大学生活では課題の提出、サークルなどの課外活動で多くの時間的な制限に捕らわれると思います。今は授業が忙しくなくても、学年が進んで平日の予定が授業で埋め尽くされた日々を送ることがあるかもしれません。毎日部活に参加し、遠征などで家を空ける日々を過ごす人もいるでしょう。中には、留学を経験する人もいます。大学生活は出来ることが膨大にありますし、大学生活でしか出来ない事もあります。特に目標や楽しみが無い生活では、高校生活よりも長いはずの大学生活もあっという間に過ぎてしまうでしょう。大学生活を充実させるためにもぜひ、大学生活の目標や楽しみを見つけ、やり遂げましょう。



数理科学科1年

白岩 卓朗

## 大学生

小さなころから大学生というものは、尊敬する存在でした。高校を卒業してさらに専門的な学習をしているイメージがあり、正直なところ中学生の頃は、自分が大学生になるイメージは全然なく、単に憧れというものでした。ところが高校に入り、勉強をしていくと、私自身社会に出ていくのに、さらに知識を増やしていくべきだと考えて、大学進学を志すようになりました。そうしてこの弘前大学に入学が決まったわけですが、私はこれから弘前大学の一員になるにあたって、初心を忘れないようにしていきたいと思います。小さなころ憧れだった大学生になれたのですから、私自身もまた小さな子から憧れられる存在になれるように頑張っていきたいと思います。また、高校まででは学べなかった、専門的な知識や社会に出ていくうえでの細かい礼儀やマナーなどもしっかりと学んでいきたいと思います。この自然が豊かで、古くからの伝統や歴史がある弘前という街で学生として生活していることを誇りに思い、今後、弘前大学生として、毎日充実した生活を送れるように、頑張っていきたいと思います。



地球環境学科1年

小栗 野乃佳

## 「入って良かった!」と言える4年間に

私は宇宙について詳しく学びたいと思い、弘前大学地球環境学科へ入学しました。大学では宇宙に関することはもちろん、他に自分が興味を持った講義を積極的に受けていこうと考えています。私は特に、多言語コミュニケーションや2年次から増えてくる専門教育科目にとっても興味があり、授業が楽しみです。幅広く学び知識を深め、卒業研究に役立てたり自分の将来へとつなげていけたらと思います。また、教職免許取得やTOEFLなどの検定にも挑戦していきたいと考えています。教職免許取得は大変なことだと思いますが、諦めず取り組みたいです。また、勉強以外に部活動へ参加していく予定です。私は高校の時に美術部で油絵を描いていたので、大学へ入っても続けていこうと思います。

初めての一人暮らしでまだまだ不慣れなことも多いですが、早く新しい環境に慣れ充実した毎日を送れるようにしていきたいです。勉強もとても大切ですが、いろいろな人との出会いやつながりも大切にして最後に、「弘前大学に入って良かった!」と言える4年間にできるように頑張っていきたいと思います。



電子情報工学科1年

久保田 将人

## 大学に入学して

弘前大学に入学して早くも1か月が経ち、入学前から色々問題もあって大変でしたが、最近やっと大学生としての生活にも慣れてきました。入学当初は殆どのが初めての出来事ばかりで、こんな私が大学でやっていけるのかと不安に思っていたのですが、今では田名部高校から来た仲間や、講義やサークルで知り合った方々など様々な人の助けを借りながら充実した大学生活を送っています。

私は変わり続ける情報化社会を先導できるような知識と実力を身に付けたいと思い電子情報工学科を受験しました。ただ、「実際に何ができるのか」、「どのようなことをやっていくべきなのか」は正直言ってよく分かっていません。ですので、これから4年間の大学の講義では自分が何をしていきたいのか、社会のためにできることはあるのかを考えながら頑張っていきたいな、と思っています。

これから始まる4年間の大学生活で何かデカイことをやってやろう!なんて大それたことは言えませんが、自分らしく当たり前のことを当たり前にやって、たまには友達と遊んだりサークルで楽しく交流したりと、できる範囲で様々なことに挑戦して、充実した生活を過ごしていきたいです。



理工学研究科  
理工学専攻1年

成田 信夫

## 大学院へ入学して

私が大学院に入学してから早くも1ヶ月が過ぎました。この1ヶ月は講義に研究に、とても密度の濃い日々で、息をつく間もなくあっという間に過ぎていったというのが正直な感想です。先輩の大学院生の方々がこんなにも忙しい日々を過ごしていたということ、身をもって感じています。私が大学院に進学した理由として、これまで行ってきた研究を引き続き行う事ができるということがあります。4年生の時は研究課題に対し、ほとんどアプローチができずに終わってしまいました。しかし、この研究の行く末をもう少し自分の目で確かめてみたいという気持ちが強かったことが最も大きな動機です。また、ゼミや学会などでのプレゼンテーション、先輩方などとの研究に関するディスカッション、学生実験でのティーチングアシスタントなどを通して今後必要になってくる力を少しでも身につけられればと思っています。

今後、大学院を卒業し、社会に出てから振り返った時に、大学院に進学して本当によかったと心から思える大学院生活になるように、支えてくれている人々に感謝の気持ちを忘れることなく、これまで以上に充実した日々を送れるよう頑張っって毎日を送っていきたいと思います。



物理科学科4年

福田 恵理

## 4年間を有効に

4年間というのはあっという間で、気付けば4年生になっていたなんて事はよくある話です。私も4年生になってからそう痛感しています。もっと全力で遊んでいれば良かった。新入生の皆さん。4年生になってから後悔しないよう、色々な事に興味を持って積極的に挑戦してください。学生のうちにしか出来ない事はいくらでもあるので、この限りある時間をぜひ有効に使ってください。その為の助けとなる事が大学にはしっかり用意されています。きっと自身の価値観が覆るような楽しい事がたくさんあります。そんな機会を経て皆さんは良い方向に変わっていける筈です。

勉強の方は高校までの内容と比べると難しくなったと感ずるかもしれませんが、ただ流れに沿って計算問題等に没頭するのではなく、自分が何をしたいのか、その為にはどうすれば良いのか、自分が今行っている事はどんな意味があるのかを考える事が大事です。考える事は他の誰にも任せられません。これは勉強に限らない事です。大学の素晴らしい自由の中で培った自由な思考を發揮し、自分の目指すものを実現させてください。弘大生の一員になった皆さんなら出来ると思いますけど！



理工学研究科  
理工学専攻1年

木村 竜男

## 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、弘前大学に入学おめでとうございます。新たな環境での生活に戸惑うことも多いかと思いますが、新入生が初めにすべき大切なこと！それは、広く人間関係を築くことです！サークルに入るのを迷っている人は是非入ってください。講義を受けているだけではできない他学部の人・知人ができ、多種・多様な話が聞けて視野が広がること間違いなしです。皆さんにはまだまだ先ですが、4年生になると卒業研究が始まります。そのときにも他分野の人・知人との関係がきつと役に立ちます。また、楽しい学園生活を送るのに必要なものは、コミュニケーション能力です。コミュニケーション能力とは自分の考えを整理し的確に相手に伝えること、また、相手の話を良く聞き理解することです。この能力をぜひ磨いてください！楽しい学園生活にも行き詰まることは必ずあります。ですが、ピンチのときに適切にSOSを出せるコミュニケーション能力があれば、きっと突破口を開くことができます。友人、知人そして先生たちとたくさん話そう心がけることは本当に大切なことです。あと大学生活で大切なことは、何でも、とにかくEnjoy！常に積極的にそして真剣に取り組めば、それはきっと楽しく大切な弘前大学での思い出になるでしょう。すばらしい大学生活を送れるよう、何事にも積極的に挑戦しましょう!!



生物学科1年  
鈴木 千尋

## 弘前大学の一員になって

長い受験戦争も終わり私にも春がきたと思いきや、まさかの大地震が発生し、入学式までの間に予想外な波乱万丈の日々を過ごしました。

地元の北海道から弘前に来るまでの間、期待はもちろんのこと不安もたくさんありました。

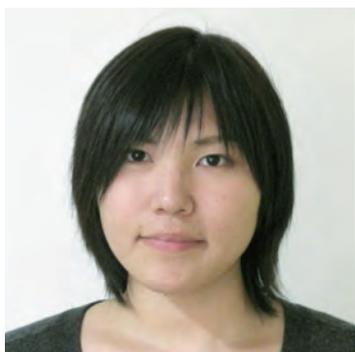
しかし、そんな不安な気持ちとは裏腹に弘前でのご新生活にも徐々に慣れてきました。

寮での集団生活や運動会を通して、共に切磋琢磨していけるような友人もたくさんできました。

大学では、いくつものユニークなサークルや履修科目が選べること、各地域の人達が集まってきていることなど、今までの高校生活とは異なることが多数あり戸惑いもありますが、私も大学生になることができたんだという実感がわいてきています。

私が生物学科を志望した理由の一つに、将来、タスマニアデビルの腫瘍性疾患についての研究に携わりたいと思っているからです。生物学の知識を身につけて、自分のやりたいことをできるようになりたいです。

4年という限られた時間を有意義に過ごせるように、勉強に部活に恋にがんばりたいです。



分子生命科学科1年  
竹田 珠実

## 弘前大学でのこれから

地震の影響を受けつつも、無事弘前大学の一員となることができ、大変感謝しています。全国で生物学科のある数少ない大学のうちの一つである弘前大学の農学生命科学部に入学し、これから、世界遺産の一つである白神山地をはじめ、豊かな自然に囲まれた土地での体験学習を通して、また、基礎から専門までしっかりと知識を積み上げられるレベルの高い授業を聞くことで、実際に起こっている問題に対して冷静に対処することや、広い視野を持ち、かつ、じっくり取り組むことのできる勉学者への道を確保することができました。

あらゆる物が便利化し、環境悪化を助長させないための対策が急がれる中、今回の地震を含め、食の安全が見直される必要がでてきています。分子生命科学科の一員として、ミクロの視点から問題と向き合うことはもちろん、総合大学の一員として、学部学科をこえて、多くの人と接し、たくさんの考えを共有し合うことで、総合的に人間性豊かな人物となれるよう精進していきたいと思っています。



農学生命科学部



生物資源学科3年

郡司 奈穂

## 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年度は、東日本大震災によって入学試験や、合格発表、入学準備等、その他多大な影響を受け、大変な思いをしたことと思いますが、大学での生活や授業にはもう慣れましたか。

私も気づけば3年生。ぎゅっと詰まった2年間でした。多くの経験をして、いろいろな人と知り合いました。「リンゴの会」に入り、リンゴの花摘みや収穫作業を経験したり、「スノーボード」のサークルに入りました。同じ学部・学科の仲間や先輩と知り合い、授業に関する情報をもらったり、弘前の「桜祭り」や「ねぶた」や「大学祭」を楽しみました。1年生の夏休みから始めたアルバイトの経験や、バイト仲間と出会ったことも今の自分を支えています。悩んだこともありましたが、助けてもらったり自分で考えを変えたりして、どうにか乗り越えて成長できたと思っています。

また、比較的自由な時間を取れる1年生のうちに、自動車免許やパソコン等の資格も取りました。授業も一生懸命出席していますが、専門性が高く内容も難しく、試験は範囲も広いので、私は痛い思いをしました。勉強を楽しみながら計画的に進めていけるといいですね。

4年間はあっという間です。自分で積極的に求めれば多くのものを得ることができます。ここでの大学生活を振り返って、「ああ、充実したい4年間だったな!」と思えるよう大切に過ごしていきたいと思います。

園芸農学科3年

瀧澤 美聡

## 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきた頃でしょうか。ところで新入生の皆さんは「大学でやりたいこと」は決まっていますか？

はっきりと決まっている方。素晴らしいと思います。自分がやりたいと思ったことをどんどん追求して下さい。ですがどうか一つの事に囚われず、広い視野をもって下さい。きっと知識の幅が広がっていくと思います。

なんとなくぼんやりと決まっている方。少しでも興味をもったならば是非挑戦してみてください。そのままのめり込むかもしれないし、他の事に興味関心が移るかもしれません。そうしたら、また挑戦してみてください。今後の自分のためにもいい経験が出来ると思います。

まったく全然決まっていない方。それでもいいと思います。大学にはいろいろな人がいて、いろんなことをやっています。その中には、あなたが興味をもつ対象もきっとあるはずです。大学生という立場を最大限に利用して、自分のやりたいことを探してみてください。

大学生活は長いようで短いもので、あっという間に過ぎていきます。まだ入学したばかりの新入生の皆さんですが、どうか4年後に悔いの残らない大学生活を送って下さい。



コラボ弘大1フロビー 金工作品「幸せのリング」

# 被災地に寄り添う活動を目指して

～人文学部ボランティアセンターの活動～

弘前大学人文学部ボランティアセンター事務局 平野 潔 (人文学部)

## 1 はじめに

2011年3月11日に発生したM9.0という大地震は、それによって惹き起こされた大津波と相俟って、東北地方の太平洋沿岸に未曾有の被害をもたらしました。被災地では、現在でも、その復旧作業が続いています。

人文学部では、この震災を受け、附属の雇用政策研究センター（以下、EPRCと表記します）内に「弘前大学人文学部ボランティアセンター」（以下、HUVCと表記します）を立ち上げました。そして、現在、弘前市と連携を取りながら、岩手県九戸郡野田村の支援を行っています。

ここでは、野田村での支援活動を中心に、HUVCの活動内容について紹介したいと思います。

## 2 設立の経緯



ボランティア活動の様子を伝える新聞記事（陸奥新報）

3月23日に「人文学部の被災学生援助（震災復興協力）を考える集い」が開催されました（この様子は、東奥日報2011年3月24日夕刊3面に掲載されています）。その席上で「大学には学生というパワーがある。支援母体として役割を果たすべきだ。」という旨の発言があり、その発言を受けて、EPRCの李永俊センター長を中心に翌24日にはボランティアセンター発起人の集いが行われ、HUVCが設立されました（詳しい経緯については、陸奥新報2011年4月24日の李センター長の「日曜随想」に書かれています）。設立の目的は、「自治体や各種NPOと弘前大学との間に立ち、ボランティア派遣を円滑に行うための仲介機能を果たす。また、このような活動を通じて地域社会に貢献する事を目指す。」ことです。5月25日現在ですが、教員と学生を併せて243名がボランティア登録を行っています。

HUVCが支援先としているのは、岩手県九戸郡野田村です。野田村は、岩手県の北東部、北上山地の沿岸部に位置しています。今回の震災では37名の方が亡くなり、300棟以上の家屋が全壊したそうです。ここを支援先としたのは、今回の震災の被害が広範に渡っているため、岩手県の県北にまで支援が行き届かないということ、そして弘前から比較的近距离にあるため、日帰りで支援活動が出来るということが大きな要因です。

### 3 これまでの活動内容



活動開始前に「道の駅おおの」で (2011.4.25)

4月12日、HUVC主催の初めてのボランティア活動が行われました。この活動の参加者は、本学の学生が19名、教員5名、一般市民11名の計35名でした。その後、18日、25日と、4月は計3回の支援活動を行いました（18日の活動に関しては、陸奥新報2011年4月20日朝刊3面に同行取材をした記事が掲載されています）。その他、弘前市が主催した野田村の支援活動も5回行われています。

5月に入ると、これまでHUVCと弘前市がそれぞれ別々に主催していた野田村の支援活動を一本化し、「チームオール弘前」として一体的な活動を行うようになりました。毎週水曜日に本学の学生と市民の方が一緒になって野田村の支援活動を

行っています（「チームオール弘前」としての活動に関しては、東奥日報2011年5月7日夕刊4面に掲載されています）。この「チームオール弘前」の活動は、5月6日にスタートし、5月だけで11日、18日、25日の計4回行われています。それとは別に、5月14日には、仮設住宅への引っ越しの手伝いをする特別便が急遽組まれました。5月末の時点で、HUVCの活動は計8回行われ、5月14日までの6回の活動で延べ228人（学生130人、教員11人、市民77人）が活動に参加しています。

野田村における具体的な活動内容ですが、現地に到着後にグループ分けがなされ、様々なニーズに応じた作業が割り振られます。参考に、私が参加した際の作業内容を紹介します。午前中に8人のグループで個人のお宅に伺いました。依頼されたのは、物置にある泥で汚れてしまった物を搬出し、その泥を水で洗い流す作業と物置に堆積した泥を取り去る作業です。車一台が入るくらいの大きさの物



体育館に積み上げられた救援物資 (2011.4.12)



震災2週間後の野田村の様子 (2011.3.29)



震災から約2ヶ月が過ぎた野田村の様子 (2011.5.6)

置にも関わらず、堆積した泥はビニールのゴミ袋10袋以上になり、このお宅の作業だけでほぼ半日かかりました。午後は、別の個人のお宅に4人ほどで伺い、1階にあった食器等を2階に上げる作業でした。これもほぼ半日かかっています。実際に活動に参加してみると、息の長い継続的な支援が必要だということに改めて実感させられました。これまでの主な活動は、個人のお宅に伺ってのガレキの撤去や側溝の泥上げ、荷物の搬出や掃除の手伝い、支援物資の仕分けなどです。

支援活動終了後には、参加者全員にバスの中で感想を聞いています。その中の一部を紹介します。

- テレビや新聞で悲惨な状況を見ても何もできなかったけど、少しでも役に立ててよかった。
- 先が見えないけれど少しずつ復興させていきたい。
- 自分の力が現地での力になれているのかという不安があったが、現地の人の感謝に勇気づけられた。



活動開始前に全員で準備体操 (2011.6.4)

- 自分たちにできることはほんの小さいことだけど、継続的に取り組んでいくことで大きな力になると思います。
- 瓦礫の撤去作業では、重機を使うと簡単に終わらせることができるけれど、被災された方の大切な思い出が無くなってしまいますので、大変ではあるけれど人の手を使っての作業が重要だと思いました。



ガレキ撤去作業の様子 (2011.5.11)



市民と学生が協力し合いながら (2011.5.14)



## 4 今後の活動

HUVCでは、授業が始まったことで平日の参加が難しくなったという学生の皆さんからの声を受けて、6月からは土曜日にも支援活動を行うことになりました。毎月4回の活動のうち、水曜日が2回、土曜日が2回ということになります。野田村への支援活動は、今後も継続していきます。

また、被災地支援に関するボランティアだけでなく、その他のボランティア活動の募集も行っています。例えば、弘前さくらまつりの際に、「さくらまつり車いす応援隊」として、公園内での車いすの貸出と介助のお手伝いをするボランティア活動に参加した学生もいます。今後も、自治体やNPOとボランティア活動に参加する学生の橋渡しの役割を果たしていきたいと思っています。

## 5 おわりに



野田村では、仮設住宅への入居が始まっており、徐々に復興に向けた準備が整いつつあります。しかし、野田村で被災された方々が平穏な日常生活を取り戻すには、まだまだ長い歳月が必要です。HUVVCでは、5年10年という長期的な視野に立って継続的な支援活動を行っていきたいと考えています。

「ボランティアをしてみたい。」という話はよく聞きますが、実際にどのようにすれば参加できるのか、現地に行って何ができるのかという不安があってなかなか参加できない学生が多いように思います。また、1回は参加してみたいけど、授業やアルバイト、サークルなどで継続的に参加するのは難しいという学生も多いのではないのでしょうか。HUVVCでは、ボランティア登録をしたから定期的に行かなければならないという「義務」とか、人手が足りないから何とかして来て欲しいという「強制」は一切ありません。ボランティア活動はあくまで自発的な活動です。HUVVCの活動は、ボランティアをしたいと学生とボランティアを欲している自治体やNPOなどとの橋渡

しをし、学生の皆さんが参加しやすいような環境を作ることが目的です。安心して参加してもらいたいと思います。

一人一人の力は小さいですが、みんなが少しずつ力を出し合えば、必ず大きな力になります。興味のある方は是非参加してみてください。

紙幅の関係で書ききれなかったことがたくさんありますので、興味のある方は以下のサイトをご覧ください。

### ●弘前大学人文学部ボランティアセンター HP

(<http://huvvc.net/>)

ボランティアセンター設立の経緯や目的、野田村視察の様子、教員が作成した活動報告書、ボランティア登録の仕方などが掲載されています。

### ●弘前大学人文学部ボランティアセンターブログ

(<http://blog.livedoor.jp/huvvc/>)

事務局の学生が中心となって活動報告をしています。学生の感想なども掲載されています。

### ●岩手県九戸郡野田村HP

(<http://www.vill.noda.iwate.jp/>)

野田村の基本情報の他、被災状況や被災された住民の方向けの情報などが掲載されています。

弘前大学芸術祭「プレミアム」が開催されました



弘前大学芸術祭は、弘前大学の芸術活動を奨励し地域との交流を深めることを目的として、平成19年度から芸術活動に対する広報費の助成という形で実施してきました。

神田理事（教育・学生担当）が委員長を務める弘前大学芸術祭実行委員会では、これまでの芸術祭をさらに一歩進めた形にしようと、弘前大学の芸術活動を一堂に集めて披露することを計画し、名称を芸術祭「プレミアム」として参加団体を募りました。

参加を希望したのは16団体で、演目のタイムテーブルが重ならないように調整した結果、6月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)の4日間に渡って開催することとなりました。「プレミアム」は初めての試みとなるため、参加団体代表による企画会議を開き、広報や会場運営など細かい打合せを行い当日を迎えました。

1日目

初日は JAZZ 研究会の屋外ミニライブで幕開けとなりました。直前に雨がパラつき一時はどうなることかと思いましたが、ライブが始まると雨も止み、JAZZ 研のライブを目当てに来てくださった方や通りすがりの方が演奏に耳を傾けていました。

続く合気道部と空手道部の演武と型・組み手は（芸術祭とは結びつかないと思う方もおられるでしょうが）、「静」と「動」が織りなす「美技」で観客の心を引きつけました。

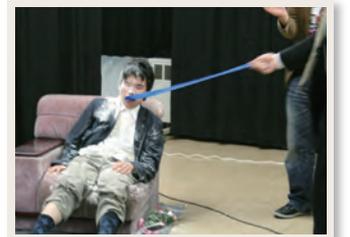


空手道部

お笑いサークル WPS は小麦粉やゴムパッチンで身体をはった芸を披露、弘前・スライド・ミュゼッグは和田美亀雄教授指揮のもと、うっとりするトロンボーンの演奏で観客を魅了しました。



JAZZ 研究会



お笑いサークル WPS



競技ダンス部

2日目

2日目は、華やかな競技ダンス部が文字どおり華麗なダンスとイケメンズ(?) による息の合った集団舞踏で一気に観客を引き込み、劇団プランクスターは脚本から演出まで全てオリジナルの「猫の佐藤さん」を披露、よさこいサークル焰舞陣は元気いっぱいの演舞で会場全体を活気づけました。大道芸サークル Mocha は、普段から出演のオフアールで土日のスケジュールが埋まるほどの人気ということで、当日のステージパフォーマンスも完成度の高い演出で観客から賞賛を浴びていました。

3 日目

3 日目、混声合唱団が「弘前市民の歌」からアンジェラ・アキの「手紙」まで幅広いジャンルの曲を美しい歌声で歌い上げると、フィルハーモニー管弦楽団は安達弘潮名誉教授の指揮によりシューベルトの「未完成」に始まるすばらしい演奏を披露、観客からは「もっと聞きたかった」という声も寄せられました。邦楽愛好会は、普段なかなか生で聞くことができない箏・尺八・十七弦などの楽器を演奏し、「剣の舞」というクラシックの名曲にも挑戦しました。



フィルハーモニー管弦楽団



クラシックギタークラブ

4 日目

最終日は、マンドリン倶楽部が可憐な音色で心安まる音楽を奏で、クラシックギタークラブはギターの独奏と2重奏でみちのくホールに南欧の風を運んでくれました。アカペラサークル V.E.L はベースやパーカッションまですべて「生声」で演奏し、ハーモニーの素晴らしさを伝えました。そして、トリをとったのはストリートダンスサークル A.C.T. でした。躍動感あふれるダンスからは観客にも Energy が伝わったようでした。



ストリートダンスサークル A.C.T.

こうして初めての芸術祭「プレミアム」はすべての演目を無事に終えることができました。4 日間の来場者はのべ 570 名と予想より少なめで、アンケートでも事前の宣伝不足が指摘され次回への課題となりました。来年は宣伝方法を工夫して、もっとたくさんの方々に来ていただけるようにしたいと思います。参加団体の学生たちにとっても、このような発表の機会を得ることで毎日の練習の励みになることでしょう。

最後になりましたが、今回、ポスターデザインをしてくれた人文学部3年の白取愛美さん、参加団体の皆さん、ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。



よさこいサークル焔舞陣



劇団プランクスター

【参加団体（出演順）】

- JAZZ 研究会
- 合気道部
- 空手道部
- お笑いサークル WPS
- 弘前・スライド・ミュゼツグ
- 競技ダンス部
- 劇団プランクスター
- よさこいサークル焔舞陣
- 大道芸サークル Mocha
- 混声合唱団
- フィルハーモニー管弦楽団
- 邦楽愛好会
- マンドリン倶楽部
- クラシックギタークラブ
- アカペラサークル V.E.L
- ストリートダンスサークル A.C.T.



弘前・スライド・ミュゼツグ



大道芸サークル Mocha

## V 新任教員自己紹介



### 人文学部 情報行動講座 講師 日比野 愛子

はじめまして。この4月に人文学部情報行動講座に着任しました日比野愛子です。専門は、社会心理学・グループダイナミクスです。「集団なるもの」の動き・働きに興味があります。これまでは、とくに科学・技術をめぐるさまざまな動きを追跡してきました。奈良と京都で過ごしてきたため、冬の雪国の様子はまだ想像つきませんが、弘前での生活を楽しんでおります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

### 人文学部 ビジスマネジメント講座 講師 内藤 周子

4月1日付けで人文学部ビジスマネジメント講座に着任致しました内藤周子でございます。専門分野は会計学で、意思決定に有用な利益構成要素の分類に関する研究をしております。これまで住んでいた東京を離れて、ここ弘前では、岩木山の表情を眺める楽しみが増えました。これからも四季折々の変化を楽しみながら、伝統のあるこの地で、研究、教育、社会活動に貢献できるよう職務に励む所存でございます。どうぞ宜しくお願い致します。



### 人文学部 経済システム講座 講師 金目 哲郎

専門分野は財政学・地方財政論です。主に日本における地域間財政格差や地方財源保障の研究をしています。現在の関心は、財政が、市場とどう向き合い、財政格差の解決をどう図るのかという視点から、政府間の税財政関係の制度設計を展望することです。関東から引っ越して数か月、四季折々の青森・弘前の街を探訪しながら、教育と研究に取り組むことを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 人文学部 公共政策講座 講師 吉村 顕真

4月1日付で弘前大学人文学部公共政策講座に着任いたしました。民法を担当しております。弘前大学に赴任して2か月が経とうとしていますが、弘前の自然の美しさ、街の所々にある歴史的な建物、青森の郷土料理などに魅了され、早くも「住めば都」と感じております。これから研究、教育、さらに地域社会貢献に尽力していくと同時に、皆さんとともに切磋琢磨していければと思っております。どうか何卒よろしくお願いいたします。



### 教育学部 美術教育講座 准教授 塚本 悦雄

美術教育講座で彫刻実技を担当します。コンピューターゲームなど手軽な楽しみで溢れる現在の社会において、実感を伴ったものづくりであり、創造的な精神活動でもある彫刻の存在は、これから益々意味を持つてくるのではないのでしょうか。ものをつくりたいという人間の本能に、より直接的に関わることが出来る彫刻。その魅力を学生の皆さんに伝え、共に学んで行きたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

### 教育学部 家政教育講座 准教授 安川 あけみ

今年度より教育学部学校教育教員養成課程家庭科専修に赴任しました、安川あけみと申します。専門は被服学です。大学卒業後、県立高校に4年間勤めましたが、その後大学院に進み、洗浄、界面化学の研究を行いながら、大学や短大で教えてきました。これまで住んだことがあるのは愛知と奈良なので、弘前の四季を楽しみにしています。着心地のよい服、型崩れや色落ちをしない服に興味のある人は、研究室へ遊びに来てください。



### 教育学部 社会科教育講座 講師 澤 佳成

4月に哲学担当として着任致しました。博士課程以降は東京でしたが、修士課程まで故郷の鹿児島で育ったため、大変な寒がりです。専門は環境哲学で、原発事故以降、自分には何ができるのか自問自答の毎日です。非常勤講師時代は、学生とのふれあいを通じて多くのことを学びました。弘大ではどんな未来が待っているのか、とても楽しみです。教育・研究活動に邁進してゆく所存ですので、御指導よろしくお願い申し上げます。



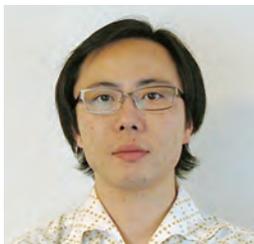
教育学部 数学教育講座 講師 田中 義久

2011年4月より教育学部数学教育講座に着任しました田中義久と申します。専門は数学教育史で、日本の数学教育の1つの転換期である昭和10年代に作られた教科書の分析を行っています。現在のカリキュラムとは異なった教材内容の構成があるため、分析から得られた視点により、今日の数学教育の改善を志向しています。皆さんと数学を通して考えることの楽しさを味わえる授業をつくっていきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

教育学部 音楽教育講座 講師 朝山 奈津子

教育学部音楽教育講座に着任いたしました。出身は広島市ですが、子どもの頃から父の転勤のために各地を転々として参りました。前任地は沖縄で、このたび縁あって弘前へ参りました。雪の深いところでの暮らしは初めてなので、新しい体験がとても楽しみです。

19世紀ドイツにおける古楽の受容、および音楽史記述を対象に、私たちの音楽に対する価値観がどのように構築されてきたのかを研究しております。西洋の芸術音楽と音楽史の面白さを伝えてゆきたいと思っています。



教育学部 教育保健講座 講師 田中 勝則

教育学部の養護教諭養成課程に精神保健の担当として着任しました田中勝則（まさのり）と申します。専門は臨床心理学で、これまで学校教育や医療の分野を中心に、臨床心理士としての実践活動や基礎研究などを行ってきました。学生の皆さんの熱心な姿勢や会う人会う人の温かい心配りに、日々、楽しく教育研究活動に従事できる喜びを感じています。皆さんのご期待に沿えるよう精進してまいります。よろしくお願いいたします。

保健学研究科 健康支援科学領域 准教授 高見 彰淑

このたび保健学研究科に参りました高見です。理学療法士とあって、リハビリテーションの一翼を担っている職業を25年間行っていました。脳血管障害治療の研究センターにいましたので、脳卒中のリハビリテーションに関わる研究を、治療とともに行ってきました。特に、急性期のリスク管理や治療、また治療に使用する評価指標について勉強しています。弘前市にはそれこそ25年ぶりに戻りましたのでよろしくお願いいたします。



理工学研究科 数理科学科 准教授 立谷 洋平

4月より数理科学科に着任致しました。専門は超越数論で、様々な数の性質について研究しています。この分野には未解決問題が沢山あります。例えば、理工系分野でよく登場する円周率 $\pi$ やネイピア数 $e$ が無理数であることはよく知られていますが、 $\pi + e$ の無理性については現在も未解決です。

今後も此処、弘前の地でこのような未解決問題に取り組みながら、研究、及び人材育成に邁進していきたいと思っています。皆様、宜しくお願い致します。

理工学研究科 数理科学科 准教授 杉本 知之

この度4月より理工学研究科に着任いたしました。専門は統計学です。統計学は、人文・教育学、経済学、生物・医学など理工学以外でも様々な領域に応用され、近年、データの科学と呼ぶ人も増えています。統計学の発展の根幹には数学・数理科学があります。この弘前の地にて、数理科学における統計学の研究・教育に励み、高度職業人として活躍できる人材の育成につなげていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



理工学研究科 物理科学科 助教 仙洞田 雄一

昨年12月付けの着任ですので、既に少し過去のことになりました。それ以前には騒々しい雰囲気場所にしか住んだことがなく、寛かな空気にあふれた弘前に来て、時間の過ごし方を再考せねばならぬと感じたものです。しかしまだ何も考えついていません。日頃専ら学んでいるのは、理論物理のとくに宇宙論や相対論に因んだことです。自然の仕組みについて何か面白いことが分かりましたら、皆さんにご報告してまいります。

## V 新任教員自己紹介



理工学研究科 物質創成化学科 准教授 **北川 文彦**

4月1日付けで理工学部物質創成化学科に准教授として着任した北川文彦と申します。私は北海道大学理学研究科にて学位を取得した後、2003年より前所属の京都大学工学研究科にてキャピラリー／マイクロチップ電気泳動を基盤とした分離科学に関する研究を遂行してきました。弘前大学におきましても、新規試料濃縮法の開発を基盤とした高感度分離分析システムの構築について研究を進めていく予定です。どうぞ宜しくお願い致します。

理工学研究科 電子情報工学科 准教授 **黒川 敦**

はじめまして。この4月に理工学研究科に着任しました黒川と申します。電機メーカーの半導体事業所、研究所を経てこちらに来ました。まだ2ヶ月ですが、弘前大学はキャンパスがきれいで明るい雰囲気、そして地域の人柄がとても良く、また電車でも飛行機でも東京都心からそれほど遠くないというのが私の印象です。専門は大規模集積回路(LSI)の設計技術です。画期的な技術開発をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



白神自然環境研究所 教授 **石川 幸男**



4月1日付けで白神自然環境研究所に教授として着任した石川幸男と申します。東京生まれですが、北海道大学大学院に入学以来30年間、北海道とその周辺国での植生研究に従事してきました。おもに森林の更新動態を明らかにするとともに、知床世界自然遺産の植物調査や道内各地での植物保護にも関わっておりました。今後は白神世界自然遺産における植物分布や生態の解明に取り組む所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

## VI けいじばんコーナー

### 平成23年度 学生ボランティア活動助成

平成23年度学生ボランティア活動助成の募集について9件の申請があり、下記の団体が承認されました。選考結果の通知は、平成23年6月21日(火)に学長から交付されました。



団体名	申請代表者名
児童文化研究部KIDS	和田 幸 恵 (理工学部)
僻地教育研究会	佐々木 恵 里 (教育学部)
さくらボランティア	清水 菜 菜 (人文学部)
ひまわりサークル	木 下 茜 (医学部保健学科)
SaBoTen	清 野 裕 香 (人文学部)
環境サークルわどわ	今 敬 太 (理工学部)
teens & law	北 田 潤 (人文学部)
アダプテッドスポーツサークル 葵～50～	板 橋 ひとみ (教育学部)
キャリアサポート研究会	二本柳 里 穂 (教育学部)

## VII 編集後記

先日、早くも梅雨が明けた。例年より2週間も早いとのこと。そのせいか、やたらと暑い。その一因は原発事故による電力不足であり、気持ちに対しても大きな影響を与えているのは明らかだ。この暑さの中、被災地の映像がテレビに映ると胸が締め付けられ、同時に「もう少し、どうにかならないのか!」といった焦りと苛立ちが入り混じった感情が込み上げてくる。

3.11の東日本大震災は戦後の日本における社会観・価値観がもろくも崩れた日、といえるだろう。しかし一方で、人間性や社会性の欠如が指摘されてきた今日の日本において、これほどまでに人と人とのつながりを目にする光景は見たことがない。これは紛れもなく日本の歴史の中で培ってきた国民性であり、見事に具現化されている。

さて、本号は新入生特集である。学長や学部長の各先生からのメッセージは、この震災について何らかの形で触れており、その想いは共通しているように思える。敢えて曲解を恐れずに書くならば「もう一度原点に立ち戻り、謙虚に地道に頑張ろう」であろう。(松)

# 構内放置自転車のリサイクル活動に取り組みました

今年は弘前大学より委託を受け、学内に放置された自転車の回収、リサイクル、販売を弘前大学生協が実施しました。弘前大学生協では、学生委員会と環境サークル「わどわ」の学生が中心となり、KES 推進委員会活動の一環として大学の協力を得ながらリサイクル活動に取り組んでいます。



5月7日（土）、14日（土）に放置自転車の整理・回収を行いました。7日（土）は学内に放置されている自転車を各駐輪場の一か所にまとめる整理活動を行い、その後リサイクルについての勉強会を行いました。14日（土）にはその整理した自転車を保管場所に移動する作業を行いました。



第1体育館まえの自転車を整理



整理後に、勉強会。



全員で、記念撮影

2日間、学生、職員合わせて延べ65名で実施しました。

14日に保管場所に移動した自転車は、車両登録番号、防犯登録番号、大学への登録番号、回収場所をデータにし、21日（土）までリストを大学ホームページ、掲示板等に掲示しました。

回収した自転車のうち数台は持ち主の申し出があり、持ち主に返却をしました。残った自転車は6月末に「サイクルショップおさない」が引き上げ、リサイクルをしていきます。

回収自転車台数

**212** 台

## 東日本大震災への義援金を募っています

弘前大学生協では各店舗に募金箱を設置し、東日本大震災の義援金を募っています。

5月20日の第3回集計までの合計額は、353,334円となりました。募金へのご協力をいただきありがとうございます。

募金箱による募金のほかに、食堂のメニューに義援金を盛り込んで1食利用があると、10円の募金がされる取り組みも行っています。

6月には義援金メニューとして「総代会定食」を出食しました。

弘大生協ではこれからも、復興に向けての支援を続けていきます。

5月までの募金額

**353,334** 円



青森県師範学校校歌の石碑



教育学部



加藤謙一の石碑

弘前大学 VOL. 171

# 学園だより

2011年7月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、  
下記のアドレスまでお寄せ願います。

e-mail: [jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp)

弘前大学学務部学生課



HIROSAKI  
UNIVERSITY

国立大学法人 弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長 一戸とも子（教育・学生委員会）

委員 平野 潔（人文学部）

佐藤 光輝（教育学部）

松谷 秀哉（医学研究科）

阿部由紀子（保健学研究科）

任 皓駿（理工学研究科）

大町 鉄雄（農学生命科学部）

佐々木宣子（学生課）

小山内英子（学生課）

印刷：青森コロニー印刷